

開催日：令和2年2月20日

当日意見

議題1 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証について

- ・ (当病院における)機能分化はむしろ進んでいて、診療所が非常に少ない中、森町家庭医療クリニックの家庭医がかかりつけ医になり、当院が入院機能を担い、さらにバックアップを磐田市立総合病院及び中東遠総合医療センターが行っているという、3階建ての連携体制が、現状で一番理想に近いと思う。(この地域が)機能分化と連携が進んだエリアとして認められるよう、これが日本全国進んだ方が地域医療構想がうまくいくのではないかと考えているので、お手本として入れていただいているような形で、県と足並みを揃えていきたいと思う。
- ・ 救急に関しては、東遠地区は当院、中東遠総合医療センターと市立御前崎総合病院の3病院で担っているが、当院は年間1,500件くらいの救急車を受けていて、それを当院が手を引くと、おそらく東遠地区の救急体制というのは破綻、中東遠総合医療センターに大きな負担をかけてしまうことになるので、当院の救急は維持しなければいけないと思う。他にも、医師の偏在化、医師確保対策、精神科等があり、お互いが協力しながら、ここの地域医療を担っているのだから、そこをしっかりと主張し、分かっただくということが非常に大事だと思う。今後、そういう議論になると思うので、県、国に提出する良い案ができればと思う。
- ・ 回復期は脳梗塞等で中東遠総合医療センターで治療して当院でリハビリして在宅とか、地域包括ケア病床は家にすぐ返せない場合や、家がなかなか受け入れが難しいので、もう少し落ち着いて調整したら帰る人も入るので、それがここの急性期の役割である。高度な治療が必要な患者は、中東遠総合医療センター、浜松医科大学に行ってもらっている。国は、地域医療は大きな病院だけで出来るというふうに考えているのか。急性期は大きな病院だけで、名指しされた病院は慢性期だけやりなさいと言っているのか。そうすると、急に起こった患者が見えないのではないかと。すべてを中東遠総合医療センター等に送ったら、たぶん救急科は対応できないと思う。そういう意味で、当院のような病院は地域に必要だと思う。

報告1 地域医療介護総合確保基金について

- ・ 特になし